

“がん検診”を受けましょう

40歳は健康を守るための、人生の大きなふしめです。

そもそも、「がん検診」って何ですか？



今、日本人の2人の1人が、生涯のうち、がんに罹患するリスクがあると言われています(2019年全国推計値データに基づく)。なかでも、「肺がん」「大腸がん」「乳がん」「胃がん」「子宮がん」は死亡率が高く、「主要5大がん」と呼ばれています。

がんの進行度を示すステージI(一番早い段階)で発見され、適切な治療が行われた場合、5年生存率は「大腸がん」「乳がん」「胃がん」「子宮がん」は90%を超えており、「肺がん」でも80%を超えているというデータがあります。「5大がん」の生存率を高めるために必要なのは、がん検診の普及による早期発見・治療です。がん治療では、検診で早期発見することがいかに大切かが示されています。

がんになりやすい人っていますか？



国立がん研究センターをはじめとする研究グループでは、日本人を対象としたこれまでの研究で、日本人のがんの予防には科学的根拠に基づいたリスク要因が関わっていることがわかりました。

「がん検診」でがんが見つかったら怖いです



健康な人(=病気の症状がない人)が、がん検診でもしがんが見つかったとしても、症状が出る前のがん、つまり早期がんであることがほとんどです。早期がんを見つけ、適切な治療を行なうことで、がんによる死を防ぎます。

また、1回の結果が「異常なし」でも、そのあとにがんができる可能性は当然あります。そのような場合にも、初期のがんをタイムリーに発見するために、定期的に検診を受けることが大切です。

検診で「異常あり」となった人で精密検査によりがんが見つかる割合は約3%(例:大腸がん検診)です。また、がん検診で見つかったがんの多くが治療可能な「早期がん」です。

こんな人は要注意!

- 喫煙、受動喫煙
- 過度な飲酒
- 太りすぎ、痩せすぎ
- 食生活の乱れ(塩分過多、野菜不足)
- 身体活動量が低い
- ウイルス感染
(B型・C型肝炎ウイルス、ヘリコバクター・ピロリ菌など)

国立がん研究センターがん情報サービス「科学的根拠に基づくがん予防」より作成

光市の「がん検診」でも、毎年初期がんの人が見つかっています

現在日本では、主要5大がんの「がん検診」が、有効な検診として推奨されていて、その有効性(死亡を防ぐ効果)は科学的に証明されています。光市ではそれに加え、前立腺がんと口腔がんも対象にしており、検診費用の一部(口腔がん集団検診は全額)を光市が負担しています。

検診の種類	胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮頸がん	前立腺がん	口腔がん
検査項目	問診 胃部X線or 内視鏡	問診 胸部X線	便潜血	マンモ グラフィ	視診 内診 細胞診	血液検査	視診 触診
対象者	50歳以上	40歳以上	40歳以上	40歳以上の 女性	20歳以上の 女性	50-75歳の 男性	50歳以上
受診 間隔	2年に1回	年1回	年1回	2年に1回	2年に1回	年1回	年1回

受診券 毎年5月末ごろ、対象者の方へ受診券を送付しています。(職場等で検診を実施されている場合は、そちらを利用してください)



検診の種類 「胃がん」「肺がん」「大腸がん」の検診方法は、2種類から選べます。(そのほかのがん検診は、個別検診のみとなります)

<個別検診>
実施医療機関を確認し、予約が必要な医療機関は予約し、受診します。その後、医療機関から結果の通知があります。
(実施医療機関や実施期間は、光市HPまたは右下のQRコードからご確認ください)

<集団検診>
受診券についているハガキで申し込みます。検診日までに、受診日などを記載した決定通知書を送付します。受診後、光市健康増進課から結果の通知があります。
(集団検診が行われる日程や場所は、光市HPまたは右下のQRコードからご確認ください)

自己負担金が、個別検診より少なくてお得です!

「がん検診」無料対象者
40歳▶「肺がん」「大腸がん」
50歳▶「胃がん」「前立腺がん」
21歳▶「子宮がん(女性のみ)」
41歳▶「乳がん(女性のみ)」
無料で受診できます!
*対象の方に受診券を送付します

☆光市の「がん検診」について、詳しくは光市ホームページへ

光市 大人の健康

スマホはこちらから >>

